

後進性の政治経済学

On the Political Economy of Backwardness

ポール・A・バラン

Paul A. Baran

I

資本家的生産様式とこれに伴う社会的・政治的・秩序は、18世紀の後半とりわけ19世紀の全體をつうじて、週期的攪亂と後退にもかかわらず巨大な・間断なき・生産力および物質的福祉の發展のための、骨組を與えたのであった。これについての諸事實は周知のごとくであるから、ここで詳しく述べる必要はない。しかるに、この物質的（かつ精神的な）進歩は、時間的には間歇的であつたばかりでなく、空間的にはきわめて不均等に配分された。すなわち、この進歩は西歐世界に局限されたため、人間の棲息する地球上の領土的にも人口學的にも比較的小さなこの部分の、すべてにわたって均等な影響を及ぼしたわけではなかつた。獨逸、英佛、西歐のいくつかの小國、そして米加、これら諸國はこの流れの中心近く位置していた。アフリカはもちろんのこと、東歐、スペインとポルトガル、イタリーとバルカン、ラテンアメリカとアジア、これら廣大な地域とそこに住む多數の住民とは、後進性と不潔さ・沈滞と惨苦・の暗闇の裡にとりのこされていた。

大多數の一流工業國においてすら、下層階級に關するかぎり、資本主義の恩恵は、おそらく緩慢でけちなものであつたらうから、もっと特權に恵まれない世界の他の地方では、恩恵はほとんどとるに足らなかつた。そこでは生産力は依然として低いままで、人口の急増は生活水準をますます悪化させていった。資本家的調和を豫言するひとたちの夢は、ただ机上の空論にとどまつた。資本の限界生産力が低い國から高いと豫想しうる國へ、資本が移動したのではなく、またかりに移動した

にせよ、それは主として、最初の投資がもたらした總産出高の増加分の、うまい汁としばしばみなされる利潤を、後進國から引きだすことを目的とした。だから、未開發國の國民總生産物が増大することはあつても、既存の所得配分事情によって、この増分が大多數の民衆の生活水準を引上げることは阻害された。すべての一般的論述と同様、本論もまた特殊な事態に根ざす批判をまぬがれるものではない。外資の流入から住民が利益をえる、植民地や從屬國が存在したことは疑いない。しかし、そのような利益はごく稀であり、反對に搾取と沈滞こそが一般的原則であつたのである。

だがたとえ、大多數の後進地域に住んでいる多くの民衆を、物質的に改善してやることに西歐資本主義が失敗したにしても、未開發國內部の社会的政治的諸條件を深刻にゆりうごかす何ものかを、西歐資本主義はなしとげた。すなわち、それは未開發國にたいし、資本家的秩序に固有な經濟的^{テンション}政治的緊張の一切を、おどろくべき速さで導入した。それは、後進社會における“封建的”粘着物のあらゆる遺物を事實上切り離した。それは、何世紀にもわたって生きのびつつあつた温情主義的關係を市場契約にとってかえた。それは、農業國の部分的あるいは全面的自給自足經濟を、市場に適した商品の生産にむかつて再編成した。それは、農業國の經濟的運命を、移り氣な世界市場の一環たらしめ、國際的價格運動の熱病的なカーヴにつないだ。

もしも資本家的市場合理性が、封建的あるいは半封建的な苛酷な隷屬に完全にとってかわっていたら、移行のあらゆる苦しみにもかかわらず、それは進歩の方向への重要な一步となつたであらう。

だがしかし、實際に起ったことは、國內主權者による未開發國民衆の昔ながらの搾取が、封建的傳統からうけついでいまや輕減されつつある束縛から、脱け出したということだけである。昔からの土地貴族の抑壓に、ビジネスによるより多くのものが加わったことは、二重の搾取、いっそう法外な腐敗、いっそう歴然たる不正行爲を生んだ。

話はけっしてこれでおわらない。實際に生じた資本と資本主義の輸出は、以上のように社會性を帯びた深い意味をもつだけではなかった。重要な物理的・技術的・過程をそれは伴った。すなわち、近代的機械と先進工業の生産物が、赤貧洗うがごとき世界の裏庭にたどりついた。これら機械の、全部ではないまでもその大部分が、外國人所有者のために活動したことはほとんどたしかである、——少くとも民衆はそう信じていた、——このため、高級生活用の目新しい洗練された附屬品類は、外國實業家と國內のパートナーたちの手中に歸した。資本主義の象徴たる金儲けと、近代産業文明の象徴たる物の豊富さは、ショーウインドーをみだし、——街頭の飢えて絶望した男の貪欲な手から、鐵條網によって守られていた。

しかし、これらのものは、街頭の男のものの見方を急激に變えてしまった。それは、かれの經濟水準をひろめふかめることによって、大望・羨望・希望をおこさせた。熱烈さと愛國的忠誠心とにみちみちた若きインテリゲンチアが、未開發國からベルリン、ロンドン、パリ、ニューヨークへ遍歴し、“可能性のしらせ”をたずさえて故國にもどった。

近代産業の中心地でみた進歩と業績とに魅せられたかれらは、自分たちの故國でも、もっと合理的な經濟および社會の秩序のもとでなら、どんなことをなしうるかについての構想を、展開し宣傳した。うわべはしづかな政治經濟の内部でしだいに熟してきた沈滞（あるいはよくいって、ほとんど目にみえない程度の成長）にたいする不満が、ここに一箇の明確な表現を與えられたのである。この不満は、社會主義社會のヴィジョンと現實との對比から養分を汲みとったのではない。それは、西歐型資本主義制度の下にあってなしとげうべきことと、現實に起っていることとの對決のなかに、

十分に燃えあがる力をみいだしたのだ。

II

しかるに、かかる制度の確立は、ほとんどすべての後進地域の小心翼翼たる中産階級の手にあまるものであった。自國の傳統的な後進性と貧困とが、社會の指導的役割をうるに必要な經濟的力量・洞察力および自信を、身につける機會を、かれらにあたえなかった。封建的支配下のいく世紀ものあいだに、かれらは、支配階級の政治的・道徳的・文化的・價値に同化した。

一方、フランスやイギリスのような先進國では、經濟的に上昇する中産階級が、初めのころ誇らしげに封建時代のかの中世的暗黒さに對立させた、新しい合理的世界觀を展開したけれども、未開發國の貧しく幼弱なブルジョアジーは、支配體制への適應以外の何ものをも求めなかった。特權に立脚する社會でくらすかれらは、既存の閑職の分け前をえようと努力した。かれらは、國內の封建的な主權者や有力な外國投資家たちと、政治的經濟的取引をおこない、かくして、後進地域の商工業が過去100年間にくりひろげたすべてが、獨占——貴族支配者にとっての財閥的仲間——という緊衣に急速に形成されていった。その結果、封建主義と資本主義、——この二つの世界が有する最悪の特徴を結合し、經濟的發展のあらゆる可能性を事實上阻止する、一箇の經濟的・政治的アマルガムができあがったのである。

この袋小路からの“保守的”出口が、やがてみいだされたであろうということは、まったく想像しうるところである。進取の氣象に富む開明的な實業家やインテリゲンチアの若き世代と、労働者農民の穩健な指導者たちとの同盟——ある種の“若きトルコ”運動——が、この難局を打開し、國の社會的・政治的構造を榮養失調から解放し、社會と經濟の進歩のための手段としては不可欠な、制度的調整を創りだしてゆくのに成功したであろう。

だが、テムポの早い現代では、かかる漸次的移行のための時間的餘裕を、歴史は與えてくれなかった。經濟的・社會的條件の改良・ないしは少くともその方向への目にみえる動きを目指す民衆の壓力が、着實に力を獲得していった。たしかに、

これら非特権階級のしだいにつる反逆性は、まだ存在するかどうかもわからぬぐらいの資本家的秩序のはかない諸原則に、向けられたのではなかった。その対象は、國民生産物の大部分を占有しこれを奢侈生活に浪費する、寄生的な封建的主権者、支配勢力を擁護し幫助する政府機關、巨利を博しつつもこれを生産的目的に利用しない富裕な實業家、および、順序は最後だが重要さの點では必ずしもそうではないところの、“開發”事業から莫大な利益をひきだすか、またはひきだすと信じこまれている外國人植民地業者、であった。

本質的にはかくもブルジョア的・“民主的”・反封建的・反帝國主義的・な主義を、この民衆運動は有していた。それは、農業平等主義に捌け口を見いだした。また、獨占を弾劾する暴露分子を狩り集めた。また、國家の獨立と外國による搾取からの自由のためにたたかった。

土着の資本家的中産階級が、この民衆勢力の指導権を握り、これをブルジョア民主主義のコースにみちびく——現實に西歐で起ったように——ためには、自分たちは普通人であると立證する必要があった。またかれらは、封建的外皮に覆われた政治的經濟的イデオロギー的指導層や、これと同盟をむすぶ獨占家たちに背を向けねばならないばかりか、國民一般にむかって、かれらが知識と勇氣とに加うるに、經濟的社會的進歩のための戦いをはじめその窮極の勝利をもたらすべき決意をも、あわせもっていることを、はっきり示してやらねばならなかった。

大部分の未開發國の中産階級は、かかる歴史の挑戦に應ずる能力をもちあわせなかった。この不吉な缺如の若干の理由、すなわち實業家階級そのものの内的構造に關連した理由については、すでに簡単にのべた。しかしながら、“外的”要因も同じく重要であった。後進地域の民衆勢力に、國內ブルジョア階級からは拒否されたイデオロギー的政治的指導権を提供したのは、ほかならぬヨーロッパ國際労働運動の目覚ましい成長であった。それは、民衆運動の目的・目標を、當初の制限された目標のはるか前方におしすすめた。

労働運動の急進主義と民衆運動の叛亂とのこの結びつきは、社會革命への緊迫した危険を壁の上

に描いてみせた。この危険が實存するかあるいは空想的なものか、ということはほとんど問題ではない。重要なのは、この兆候の認識が政治的社會的行動を事實上決定した、ということである。この危険は、民衆の反封建的・反獨占家的運動に資本家階級が参加しこれを指導するという、機會をのこらず粉碎した。收奪や滅亡という致命的な恐怖をすべての財産所有者層のはらわたにしみこませることによって、社會主義的急進主義の勃興、とりわけロシアにおけるボルシェヴィキ革命は、社會において多少とも特権に恵まれ多少とも富裕な分子をも、ひとりのこらず“反革命”の連合に追いこむのに役立った。大地主と小地主、獨占企業と競争企業、自由なブルジョアと反動的な封建的主権者、國內勢力と外國勢力、これら相互のあいだにいかにか差別と敵對が存在しようと、あらゆる重要な場合に遭遇すれば、社會主義を喰いとめる點で壓倒的に共通の利害によって、それらの差別と敵對のほとんどすべては消滅してしまう。

未開發國に一般的な經濟上政治上の行詰りを、進歩的資本主義の方向で解決しようという可能性は、失われたも同然であった。資本家的中産階級は、自分以外の支配階級のあらゆる部分と同盟したために、戦略的要點をひとつずつ明け渡していった。土地貴族との争いは急進的な民衆運動の手で利用されることを恐れて、中産階級は、農業問題における進歩的態度をすべて放棄した。教會や軍隊とのアツレキは政府の政治的權威を弱めることを慮って、中産階級は、一切の自由・平和の汐流から遠ざかった。外國勢力にたいする敵意はいつたん革命的緊急事態が発生した場合、外國援助の途を斷つことを心配して、國內資本家たちは、以前の反帝國主義的・國民主義的・綱領をかなぐりすてた。

かくて、あらゆる未開發國（おそらくは未開發國にかぎるまいが）に特有の、政治的相互作用の獨特な機構が全速力で作用した。中産階級が最初から人民大衆に鼓舞と指導を與えるのに失敗したことは、人民大衆を驅って社會主義的急進主義の陣營に赴かしめた。急進主義の成長は中産階級をして貴族的、獨占的な反動との同盟におしやった。共同の利害と共通の恐怖でひとつにかたまつたこ

の同盟は、民衆運動の勢力を急進主義と叛亂との路線でいっそう前進させた。この結果、極と極とのあいだにはほとんどなにもものこさぬような形への、社會の分極作用が生じた。資本家的中産階級は、この分極作用が展開することを黙認し、普通人たることをやめ、新たなる進歩的方向に向って社會を再編成するという課題を放擲することによって、自國民の運命を事實上統御し・封建主義と反動とのとりでに向っておしよせる民衆の嵐のような強襲を指導するという・自らに與えられた歴史的好機をすて去ったのである。かくして、資本家的中産階級の燃えるがごとき熱情は、現存する經濟的社會的制度的完成に向けられるにいたった。

III

資産階級の支配連合によって維持されている經濟的政治的秩序は、自らが未開發國のいかなる差迫った要求とも、つねに戦っているのを知っている。この秩序に具體化される社會構造も、この秩序に立脚する諸制度も、いずれも進歩的な經濟開發に寄與しない。經濟的成長を準備し、生活水準の不斷の低下を防ぐ唯一の途は、(他國には受入れられない大量移民のことはさておき) 少くとも人口の急増を相殺するに足る程度の、總産出高の着實な増加を保證することである。

かかる増加の分りきった源泉は、利用できるがまだ利用していない・あるいは利用していても利用度の浅い・資源の利用ということである。この活動休止の・生産的な・潜在諸力の貯水池は、その大半が、完全失業ないしムダに雇傭されている・老大な人力である。これを、農業の部面で、労働の限界生産力がゼロに向う農業の部面で、有益に雇傭する途は少しもない。工業的な仕事への移動によってのみ、かれらは生産的活動の機會を與えられることができよう。これを實行可能なものたらしめるには、工業用施設や便宜への大規模な投資に着手せねばならぬ。一般的条件のもとでは、このような投資は、多くの重要な相互に關連する理由のために、できそうにもない。

きわめて僅かの所得總計(および富)が、きわめて不公平に配分されるので、日常的消費に“適當”な必要額とみなしうる、限度をこえる多額の

個人所得が、一般に比較的少數の高額所得者層の懷にはいる。かれらの多くは、住宅・召使・旅行・その他のぜいたくに莫大な支出をおこない、封建的生活様式をまもりとおす、大土地所有者たちである。かれらの“消費要求”は、貯蓄の餘地をほとんど與えないほどきわめて高い。相對的にはとるにたらない額だけが、わずかに農地の改良に支出するためにのこされるにすぎない。

このほか、“適當な”消費水準をいちぢるしく超える所得を、うけとっている“上層階級”に屬する人々は、富裕な實業家である。さきに略述した社會的理由のために、かれらの消費もまた、かれらがかかりにブルジョア文明のピューリタンの傳統のもとで、生い育ったとした場合に當然考えられる程度よりも、ずっと大きい。生活慣習について、社會的支配力を有する“古い家柄”のまねをしてみたり、豊かなくらしの娛樂面に目立った支出をすることによって、自分たちも支配連合における貴族の仲間にならねばならぬ(したがってまた政治的にも)、見劣りするものではないということを證明したい、という熱心な欲求によって、蓄積と事業擴張への衝動がたえず中和される。

だが、都市の高額所得者のもとに集積されえた貯蓄の分量を、みぎの消費傾向がすっかり削ってしまうとすれば、資金を生産的な事業に再投資したいというかれらの意志も、せつかく樹立した獨占的な市場體勢を、追加的な生産能力の創造によって目茶目茶にすることにたいする強い抵抗のために、また未開發國に關しては逆説的にひびくかもしれないが——適當な投資機會の缺如のために、阻止される。

投資機會の缺乏は、現存の有効需要の構造およびその限界に、その大部分の原因を有している。きわめて低い生活水準のもとでは、民衆の貨幣所得總計の大半が、食料・比較的質素な衣料品目・家庭必需品・の購入に支出される。こういった品物は安價に入手可能であり、この種の商品をより安く生産しうる施設や便宜にたいする多額の投資が、魅力的な利潤を約束することは稀である。金持の要求をまかなうような物を生産する大企業を發展させることも、備け仕事とは思えない。いろいろな奢侈品にたいするかれらの個人的購入がい

かに大きくても、奢侈品のひとつひとつにたいするかれらの消費総計は、あるひとつの精巧な奢侈品工業の発展をたすけるには不十分である、——とりわけ、およそ趣味の流行につきものの“氣取り屋”根性なるものが、舶來のぜいたく品だけを、あたかも社會的區別の本當のしるしのようにしているから、よけいそうなのである。

さいごに、制限された投資財需要は、機械工業や設備工業の創立を妨げている。したがって、國內で不足している一般消費財や、金持が購入する奢侈品ばかりでなく、工業が必要とする比較的僅かな投資財までもが、國內の農産物や原料とひきかえに、海外から輸入される。

このことが、輸出用原料の産出高の擴張を、投資活動の主要な捌け口たらしめる。がしかし、その可能性は、ほとんどすべての原料の生産技術と、それが向けられる市場の性格によって、大いに影響される。多くの原料、とりわけ石油・金屬・若干の工藝作物は、低いコストを維持し十分な利益を確保するためには、どうしても大規模に生産されねばならない。しかし大規模生産は、後進國の土着資本家の潜在能力を上回るほどに事實大きな投資を必要とする。その上、遠距離市場をめあてとする原料生産は、國內取引で遭遇するよりはるかに大きなリスクを課している。世界市場の受入れ能力・他國との競争上實現しうべき價格・世界の他の地方における産出量・等のごときこと柄を間違いなく豫測することの困難さは、この方面の取引における土着資本家たちの關心をひどく減殺する。この取引は、主として、土着資本家に比し金融的にもまさり、同時にまた生産物の外國での捌け口ともはるかに密接な關連をたもっている、外國人たちの専門領域となる。

投資すべき資金と機會の不足は、同じ問題の兩側面をあらわしている。一般的條件のもとでは不利益な、非常に多くの投資計畫が、經濟的擴張の普遍的な環境のもとではもっとも有望なものとなりうるであろう。

後進國では、なにか新しい産業上の冒險は、つねにではないにしてもしばしば處女地をきりひらいてゆかねばならない。それは、現に機能中の・頼るべき・經濟システムを、もたない。それは、

企業の限界の内部で自らの努力をとおして生産過程を組織しなければならぬばかりか、仕事を始めるにどうしてもなくてはならぬ外部的な一切の取極めをととのえなければならぬ。それは、“外部經濟”の利益をうけることがない。

未開發國における外部經濟の缺如・經濟的環境の不十分さが、産業計畫への投資の重大な障礙をいたるところで形成したことは、疑いない。急速にこのギャップを埋める途は存在しない。大規模投資は大規模投資に基いている。實業家が工場を建て新しい産業的企業に資金を投ずることが、有利だと分る以前には、道路・電力發電所・鐵道・家屋が建設されていなければならぬ。

だが、道路建設への投資・運河や發電所建設への金融・大規模な建築計畫の組織化・等は、未開發國資本家の金融的頭惱的水準をはるかに凌駕している。かれらの財源がこのような野心的計畫にとってはあまりにも小さすぎるばかりでなく、かれらの背景とかれらの慣習とがこの種の危険に踏みいることを邪魔している。消費財の商品化とその製造という傳統のなかで成長した——これは、資本主義發展の初期の段階の特色でもあるが——後進國の實業家は、迅速な回轉・大きくても短期のリスク・それに相應して高い利潤率・に慣らされている。このようなかれらにとって、何年かの経過ののちにはじめて利殖があきらかになるような、事業に資金を沈澱させることは、まことに不安かつ氣乗りのしない出發なのである。

かくして、利潤が規制力をもつ市場經濟ならどこにも存在する、社會的合理性と個人的合理性とのあいだのちがいは、未開發國において特に甚しいものがある。道路建設・水力利用・家屋擴張の組織化は、工業の發展を容易ならしめ、かくして國民的規模での生産力の増大に寄與しうるが、一方では、かかる活動に従事する個々の會社が、損失を蒙り投資を回収しえないことが起りうる。ここにひそむ問題の性格は、容易に例證することができる。すなわち、工業で新しい事業を起すには、なによりもまず相當に熟練した人間力の利用可能性を前提する。人間を雇い入れ仕事を訓練するには、ひまと金がかかる。かれらが、非生産的で浪費しやすくかつ貴重な道具や設備の取扱いに不注

意である、ということもありがちである。かれらが訓練をおえ必要な腕前を身につけてからも、なお会社がかれらを雇い入れておくことを、最初から大體確實に考慮に入れておくことが可能ならば、以上の損失を受け入れることも、個々の会社の立場からして正しいといえるかもしれない。しかし、かれらが、訓練を受けた会社を去って別の事業のために働き出すならば、第二の新しい雇主は最初の会社の費用の果實を摘みとってしまうであろう。發達した産業社會では、こんなことは比較的重要なではない。労働者の移轉によって生ずる個々の会社の得失は、おそらく相殺されるであろう。後進國にあっては、かかる相殺の機會は絶無ではないにせよきわめて少い。たとえ社會の構成員の少くともある部分の熟練度の増大によって、全體としての社會が利益を蒙ることが明らかではあっても、かかる増大に必要な訓練を興えることは、個々の實業家には不可能である。

ところで、總產出高の必要な増加は、土地という、もうひとつの・未活用の・あるいは利用不十分の・生産要因を、もっとよく利用することによって、達成されえないであろうか。

ただに農業用に適しているのみならず、同時にすぐにも農耕可能な、という土地はないのがふつうである。耕作はできるが、実際にはまだ耕されてもいないような土地に定住しうるためには、一般にかなりの投資が必要であろう。後進國では、このような農業用の出費は、工業用の出費と同様個人の利害にとっては魅力ないものである。

他方、すでに農業に使用されている土地のより十分な雇用も、なかなかの困難に直面する。生産性の増大のために要するであろうほんの少しの改良ならば、小農の貯えの狹隘な限界の内部で處理することも可能である。しかし未開發國の農民は、こんな革新の費用も支拂うことがまったくできないばかりでなく、かれらの土地の大いさが第一、かかる革新の採用そのものに妥當性を與えない。

大土地所有者だって、ある意味ではこれにまさる状態にあるわけではない。かれらが自由にしうる貯蓄の限られた量を以てしては、事業における金の掛る改良に融通するための資金をもたないし、輸入設備の高價なねだんと農産物價や農業労働者

の賃金とを比較するとき、そのような計畫も有利には見えなくなる。

かくて、農業からアプローチしても、總產出高の擴張は、ひとえに工業の發展をとおしてのみ、實現しうるようにみえるであろう。ただ工業生産力の増大をとおしてのみ、農業用機械・肥料・電力・等が、農業生産者の手にもたらされるであろう。ただ労働需要の増大をとおしてのみ、農業賃銀が上昇し、農業經濟近代化の刺戟が興えられるであろう。ただ工業生産の伸長をとおしてのみ、機械によって排除された農業労働が生産的雇用に吸収されうるであろう。

しかし、獨占的な市場構造・貯蓄不足・外部經濟の缺如・社會的合理性と個人的合理性とのちがいは、未開發國の私的に組織された工業擴張を阻止する障碍の全部ではない。これらの障碍は、すべての後進地域にみなぎる國民全體の不安感を背景にして考えらるべきである。恐怖の壓迫下に形成され社會的動亂の實際的ないし想像的危險から結合した資産階級の連合は、うわべは静かな政治の裏面で多かれ少かれ危険な動搖をたえず起している。この連合が政治的回答である社會的緊張は、現存の組織によっては一掃されず、たんに抑制されるのみである。未開發國の支配層のなかで比較的開明的で理解力をもった人たちは、日常の業務がしばしば正常で無事にみえても、その政治的社會的秩序に固有の不安定性を感じている。農民暴動・激烈なストライキ・局部的ゲリラ戦・の形をとってあらわれる、民衆の不滿の時折の爆發は、潜在的危機の不吉な豫想としてしばしば役立つ。

かかる風土のもとでは、投資への意圖は貨幣所有者の側にはない。また、かかる風土のもとでは、長期的計畫にたいする熱狂もない。また、かかる風土のもとでは、社會が提供する特權にあずかるすべてのひとのモットーは、**現在を楽しめ** (carpe diem) である。

IV

しかし、關係政府の側における適當な政策が、この政治的風土を一變し、經濟發展を容易にすることはできないであろうか。國家の社會的構造の分析や國家の政治的經濟機能の理解にたいし、本

當はゴマカシの國家萬能主義がほとんどとってかわったような現代では、上記の問いに肯定的に答えるのが、あきらかに一般的傾向である。

問題をたんに機械的に眺めるならば、民衆の生活水準の向上を伴う總産出高の、比較的急速な増大を與えるために、未開發國の賢明な政權がなしうることは多い、と事實思われるであろう。後進性克服の努力として政府がとりうる方策は數多い。資本課税・高率累進課税方式・といった方法で、超過購買力をすべて吸上げ、かくして、あらずもがなの消費を絶滅するような、財政政策を採用することもできよう。このような強制貯蓄は、政府の手をとおして生産的投資に注がれることもできよう。生産力の増大に役立つ經濟環境を創り出す目的で、發電所・鐵道・公道・灌漑方式・土壤改良が、國家の力で組織されることもできよう。青年のみならず、成年労働者・未就業者に産業上の訓練を施すために、各級の技術學校が當局によって設立されることもできよう。技倆の習得を低額所得者層にも近づけるようにするために、奨學金制度が導入されることもできよう。

若干の産業計畫に着手することを私的資本が斷念し、あるいは、特殊の産業における施設や便宜の必要な擴張を獨占的管理が妨げているところではどこでも、政府が乗りだしてきて必要な投資をなすこともできよう。長期には利益のあがる開發の可能性も、當初の企畫・學習・の期間中は儲けがないように見え、そのため私的實業家の能力範圍を超えるばあいには、政府が短期の損失を負擔してこれに着手することもできよう。

さらに、當局は“防止”策の全兵器庫を握っている。投資計畫にたいする出費が、それに照應する消費の同時的縮小によって經濟制度のあらゆる部面でもしも相殺されうるならば、(私的・公的・)開發活動から生ずるインフレの壓力も減退し、さらには消滅することさえ可能であろう。これに必要なことは、投資がひきおこした貨幣所得總計の膨脹を、帖消しするに足る額だけ所得の流れから事實上とり去るような、課税政策だけである。

その間、補足的手段として、厳格な價格統制をとおして稀少財の投機と必需品の超過利潤とが抑

制されうるであろう。割當によって、供給不足な大衆消費財の公平な分配を確保することができよう。配給と優先順位表とによって、需要の多い資源の奢侈的用途への流用を阻止することもできよう。外國爲替をふくむ諸取引の嚴重な監理は、資本逃避・奢侈品輸入への制限された外貨資金の支出・娛樂的な海外旅行・その他これに似た行爲を不可能ならしめることができよう。

以上の諸方策の結合がなしとげるであろうことは、未開發國の有効需要構造の急激な變化と、經濟開發に必要な社會的需要を充足するための生産資源の再配分である。すなわち、高額所得者層の消費制限によって、投資目的に利用可能な貯蓄の量は目立ってふえることができよう。供給が限られている外國爲替の資本逃避への蕩盡、または余計な外國商品や外國サービスの輸入を、阻止することができ、かくして貯えられる外資を、經濟開發に必要な、外國製機械類の獲得に使用することができよう。社會的必要はあっても短期間に十分な利益を約束しないかもしれぬ企業を、個人的利害が忌避するということが、後進國の經濟生活を決定するという事は、もはやなくなるであろう。

未開發國の産出高と所得との擴大を確保するために着手せねばならぬ諸施策を、たんに列挙しただけで、ほとんどすべての未開發諸國に現存する政府がこの諸施策を實行しようという見解がまったく信じられないことがわかる。この無能の理由は、計畫管理に必要な適任で正直な文官が存在しないということであるが、これはとるに足らない理由である。未開發諸國にみなぎる政治的社會的憔悴の徵候そのものたる、この欠乏は、その根柢に横たわる諸原因を衝くことなしにはいやしがたいものである。後進國における満足すべき税政策の缺如を歎いてみたり、あるいはまた、民衆の公民道徳における納税“モラル”と納税“訓練”の不足を悲しむだけでは、問題の根本になんらふれることにはならない。

開發計畫の實現を幻想的ならしめる決定的事實は、政權を握る政府の政治的社會的構造である。ほとんどすべての未開發國の運命を操る資産階級の同盟が、直接かれらに歸屬する利益のひとつひとつおよびすべてに反する一連の方策を、企畫し

實行するなど、期待することはできない。反抗的な民衆をなだめようとして、農業改革・公平な課税立法・などの進歩的方策の青寫眞が公式に發表されることがあっても、その実施は頑強にサボタージュされる。地主勢力と實業家勢力とのあいだの政治的妥協の表現たる政府は、貴族の方での粗雑な所有地經營や法外な消費ぶりを抑えることも、實業家の方での獨占の濫用・不當利得・資本逃避・ぜいたくなくらしを抑えることも、できない。富める家の後裔たちに魅力に富んだ生涯を興え、かれらの兩親たちによってつくられる兵器の有利な捌け口となる軍事警察機構——おこりうべき民衆動亂にたいする主たる防衛としてこの機構が役立つ事實は、まったく不問に附しても——の無節制な私物化にたいし、政府は、これを制することも止めさせることもできない。政府は、現存の所有權と特權を擁護するためにつくられているので、經濟進歩のゆく手に立って特權を打破し、財産とそれからえられる所得を社會全體に役立たせるような、政策の推進者にはなりえない。

十分に考究され強力に實施される開發計畫が、ほとんどすべての未開發國にゆきわたる政治的社會的制度和、本質上は相容れない點をみとめながらも、なお、必要な方策のうち若干は少くとも現存の政治的權威によって實行されえようと、主張する“中間派的”立場については、多くふれない。この派の考えは、支配連合の側における必要な讓歩を強制できるような社會的・政治的勢力が、完全に缺如しているわけではないにせよ弱體であるという點を、まったくみのがしている。未開發國の上流階級は、背景と政治的教育のおかげであまりにも近視眼的利己的なために、おやゆずりの地位や大切な特權の一寸の侵害をも許さないくらいだから、そういう方向への一切の壓力に頑強に抵抗する。この壓力が強力になるたびに、かれらは改革のあらゆる試みを社會の根抵そのものにたいする攻撃だと叫びながら、すべての保守的分子の同盟のあらたな強化をなしとげる。

たとえば、累進課税・資本課税・外國爲替管理が、未開發國の墮落したビジネス共同體で働く、腐敗官僚の手によって實施されるとしても、そのような實施では本來の目的がほとんど失われてしまう

であろう。法外な利潤が期待されなければ實業家が投資しないところでは、この利潤の大半の取上げに成功するような税制度は、私的投資を枯渴させざるをえない。商賣や土地の管理が主にぜいたくなくらしができるという理由でひとの氣を惹くところでは、奢侈品輸入を阻止する外國爲替管理は、企業を阻害せざるをえない。インテリゲンチア・技術者・官吏の側における勤勉が、支配階級の特權の分け前に參與する機會をうるという點にその唯一の刺戟をもとめるところでは、社會上の身分と所得の不平等を減殺することを目的とする政策は、かれらの努力を壓殺せざるをえない。

封建主義と資本主義とのあいだの薄明りの中でくらす社會に計畫化を導入するならば、いっそう大掛りで巧妙な脱法行爲と厚かましい當局輕侮とをみちびいて、腐敗に腐敗を重ねる以外にない。

V

袋小路からの脱出はまったくないようにみえるであろう。諸勢力の支配連合は、自らの決意を放棄せず、どんなに呪われても自らの性格を變えない。たとえその個人的メンバーは時に肉體的あるいは金融的に（またはいずれも）、いまや沈まんとするこの船から立去ることがあっても、資産階級全體は一般にその政治的・經濟的壟壕を離れないという冷厳な決心をかためている。

もしも社會動亂の徴候が危険な様相を帯びるならば、かれらは政治生活の支配力をつよめ、手放しの反動と軍事獨裁の方向へ急速に移行する。自己に有利な國際的好機と外國支配者層とのイデオロギー的・社會的・親近關係を利用しつつ、かれらは、迫りくる悲劇を防ぐ努力のなかで外國からの經濟的援助、ときには軍事的援助をも要請する。

かれらを權力から一掃してしまう社會革命に比べれば、かれら自身はそれよりもこわくない罪惡だとみてとる外國政府によって、この種の援助はなされるようだ。かれらの海外における友人・保護者・のこのような態度は、かれら自身と同じように近視眼的である。

緊急に必要な經濟開發のための、未開發國の社會的・政治的條件の調整は、延期することはできる。だが無限に避けられるものではない。むかしなら

ば、何十年も何世紀も遅れることもできたであろう。だが、現在では何年という問題である。軍事援助を與えることによって、後進國に現存する政治的權力機構にテコを入れることは、火山の噴火を一時は喰止めるであろう。しかし、爆發諸力が地下に集結するのを阻止することは不可能である。

後進國政府が經濟進歩の方策を推進できるように、借款・贈與・の形でかれらに與えられる經濟援助は、經濟開發が達成された際に委任統治となるという國內變化の身代りではない。

じっさいには、かかる援助は益よりも多く害をなすかも知れぬ。かくして導入される外資は、政府もしくは民間の責任でおこなう投資計畫のための、ある種の外國製機械類・設備・の輸入をたぶん許しながら、健全なる經濟發展を確保するに必要などんな措置をも伴わないから、未開發國に存在する社會的・經濟的・緊張を増進しかつ悪化するラセン形的インフレを開始させるかも知れない。

外國からの借款もしくは贈與が、もしも受入れ國側のその使用についての一定の條件履行とむすびついている場合には——こういう場合はしばしばだが——、それにもとづく投資は、借手國より貸手國の利害とつよく一致するような部門に向けられるであろう。“技術援助”の形をとった經濟勸告が未開發國に與えられ、その承諾が金融援助の適格條件とされるところでは、經濟勸告を作成する外人専門家にイデオロギー的あるいはその他の面で迎合的ではあっても、“受惠”國の經濟開發にはかならずしも貢獻しないような政策の方へ、未開發國の政府を向わせることがしばしばである。かくして、ナショナリズムと排外主義が後進地域で強まってくる、——これがまた政治的反抗をさらにかりたてる。

後進國が經濟發展と社會進歩の大道に就くためには、現存の政治的組織が修正されねばならぬ。封建地主・王黨的ブルジョア・資本家的中産階級のあいだの同盟は打破されねばならぬ。過去にたいする擁護者は將來にたいする建設者たりえない。後進社會に現存する進取の氣象にみちた進歩的分子が、經濟的社會的發展の方向へ自國をみちびく可能性をつかまねばならぬ。

かつてフランス・イギリス・アメリカが自國の

革命をとおしてなしとげたものは、いま後進國においては、民衆の勢力・開明的政府・自己犠牲的な外國援助・のひとつに結ばれた努力によって達成されねばならぬ。このひとつに結ばれた努力は、かならずや死せる時代の遺制を一掃し、未開發國の政治的・社會的風土を更新し、進取と自由の新しい精神を國民に鼓吹するに相違ない。

もし、ブルジョアジーが後進地域におけるその責任に目ざめるということが、歴史の過程ではあまりにも遅きに失するということが立證され、また、封建的過去への隷屬と適應の長きにわたる經驗が、進歩的資本主義の力を骨ぬきにしていたとしたら、世界中の後進國が經濟計畫化と社會集産主義へ轉ずることは不可避であろう。もし、ハイカラな利己心を推進力とする經濟的・社會的・進歩についての資本家的世界觀が、おやゆづりの地位や傳統的特權から成る保守主義について勝ちえないとしたら、またもしも、能率家・勤勉家・有能人に、出世と褒賞を約束する資本主義が、育ちのよい者・門閥のよい者・おとなしい者に、安寧と權力とを保證する封建主義にとってかわらないとしたら、新しい社會的エトスが新しい時代の精神とそのみちびき手となるであろう。それは、集團的努力のエトス、えらばれた少數の者の利害よりも社會の利害が優越するという信條であるだろう。

移行は唐突で苦しいかもしれぬ。農民に合法的には與えられない土地が、強力的に占有されるかもしれぬ。課税を以ては沒收されない高額所得が、徹底的收奪によって絶滅されるかもしれぬ。ありきたりのやり方では引退しない腐敗官僚が、激烈な行動によって除かれるもかしれぬ。

いずれの方向を歴史の車輪が回轉し、いずれの方向に後進國の危機がその最後の解決をみいだすかは、多くは、後進地域の資本家的中産階級、世界の先進産業國の支配者たちが、かれらの恐怖と近視眼を克服するかいなかにかかっている。それとも、かれらは、資本主義時代のきようこの頃では、死の恐怖から自殺しそうな位にもうろくしたので、偏狹な利己的觀念によってあまりにも呪縛され、進歩を憎む心によってあまりにも盲目になったのであろうか。

(宮崎犀一譯)